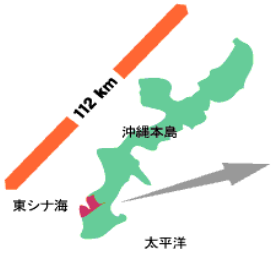
モデル事業名	なはまちつながるプロジェクト
活動団体名	NPO法人まちなか研究所わくわく
ホームページ	http://machiwaku.com/
所属／担当者名	NPO法人まちなか研究所わくわく　事務局長　宮道喜一
連絡先	TEL098-861-1469　office@machiwaku.com
活動地域	沖縄県那覇市・中心市街地（特に、久茂地小・神原小・壺屋小・前島小・開南小学校区）

●　活動地域の概要

本事業は、国際通り・第一牧志公設市場といった那覇市中心商店街を取り巻くように設置されている５つの小学校の小学校区エリアを主な対象地域とする。この地域は、戦後の闇市から広がった商業地域で、旧・那覇市中心市街地活性化基本計画の重点施策地域におおよそ含まれ、直径約2kmの円の中に覆われる範囲であり、人口約２万４千人、世帯数約１万２千人の地域である。この数字からも単身世帯や子どものいない世帯が多いと推察でき、高齢者世帯の増加と居住人口の減少があり、空洞化が起こっている地域である。また、当該地域の自治会加入率は、那覇市内25.2%であるのに対し10.4%と低く、自治会空白地区が多い。通り会・組合などの商店街組織やPTAなどの学校関連組織など地域組織はあるものの、地域を一体的に考えて取り組みを行っていける地域ネットワーク組織はない。



▲那覇の位置

▲中心市街地（直径２kmの円内にほぼ納まる）

▲商店街に増殖するお土産物屋

●　活動地域の課題

□『現在』のつながりは希薄

商業者と居住者・地元買い物客とのつながり：　居住人口の減少、スーパーマーケット・大型ショッピングモールの増加、観光客の増加の影響を受けて、商店街は観光客をターゲットとした店が増え、地元買い物客は「観光客向けの店しかない商店街」というイメージを持ち、買い物に来なくなる。

地域内の人同士・組織同士のつながり：　少子化による小学校の統廃合問題、商店街の衰退、地域の治安の悪化、独居老人の増加、内地資本による土地の買いあさり、第一牧志公設市場や水上店舗、アーケード、木造店舗などの商店街の魅力を生み出している建物等の老朽化とそれに伴う災害対策のなさ、など個人や一組織、行政だけでは対応できないような課題が絡み合って多数存在している状況である。

□『過去』を活かすことができない

地域外専門家とのつながり：　これまで地域外から数多くの専門家が入って調査研究・取材等が行われ、様々な未来像が描かれたり、語られたりしてきた地域である。しかし、それらの取り組みは、単発的であり、積み上げもなく実施されることが多く、地域の人々が未来を考えていくプロセスに役立つ情報として提供されていない。

□『未来』へ地域への愛着・誇りをつなげない

子ども・子育て世代とのつながり：　現在の30代、40代の子育て世代は、地域へ訪れる機会も減り、愛着が薄れている。そのため、その子ども達も同様である。

●　活動の内容

□まちつな資料館

収集した地域情報の発信拠点として、2009年10月１日、昨年に引き続き「まちつな資料館」をリニューアルオープンした。場所としては、地域の中にある公共施設で、利活用が問題となっている那覇市施設「にぎわい広場」（旧・第２牧志公設市場）の１室を利用した。

□まちなかＷＥＢ

地域情報紙「まちなか現在」と連動したWEBサイトであった「まちなかWEB」を「まちつな資料館」と連動するWEBサイトへリニューアルを行った。４つのブログサイト（イベント情報／まちの話題／まちつな資料館／お店紹介）から成り立っており、収集された情報は情報の種類によって掲載するブログを分け、記事として情報発信を行った。

□マチグヮー楽会

平成20度、これまでバラバラに所在していたマチグヮーに関わるあらゆる「知識」「情報」を収集・蓄積し、人のネ

ットワークを広げていくことを目的に、地域内をフィールドとして地域内・外の人々が実施した調査・研究・イベントなどの取り組みを、それぞれの実施主体が地域の人々に対して発表する機会を「第１回マチグヮー楽会」として実施した。取り組みの意義を確認した中心メンバーによって、引き続き第２回マチグヮー楽会を開催した。

（直近１年間の進捗など）

平成 22 年度は、那覇市より重点分野雇用創出事業「地域の力をつなぐまちづくり事業」を受託し、以下の取り組みを行っている。

□「マチグヮー情報館」の設置

那覇市にぎわい広場に地域のまちづくりの拠点として設置した「まちつな資料館」を平成 22 年７月に「マチグヮー情報館」としてリニューアルし引き続き運営を行っている。

□市民参加型・那覇のマチグヮーオフィシャルサイト「てくてく通信」の開設とフォトレポーターの育成

まちなかＷＥＢを発展させる形で、市民がフォトレポーターとしてマチグヮーの写真を投稿できる市民参加型のマチグヮーオフィシャルサイト「てくてく通信」を開設した。http://machigwa.com/

□マチグヮーで活動する人・組織の成果共有・交流のための「マチグヮー楽会」開催（第３回）

昨年度に引き続き第３回マチグヮー楽会開催に向けて動いている。第３回のテーマは「商い」。

□その他の取り組み

－沖縄大学と連携した中学生のマチグヮー職場体験プログラムの開発
－那覇市中心商店街連合会・広報紙発行サポート
－中学生のためのマチグヮー成り立ち副読本作成（年配者への聞き取り調査）
－地域情報誌「み～きゅるきゅる」の制作（Vol.７特集：第一牧志公設市場）
－インターン生の受け入れ

●　活動の成果

・一つ一つのつながりの見える化することで次の展開が見えてくる。
・マチグヮー楽会が未来のマチグヮーについて話す開かれた場として機能させることができる可能性が見えてきた。
・資料館という場があり、人がいることで情報と人が集まるコミュニティの拠点としての可能性が見えた。
・戦後何もないところから生まれたマチグヮーの生活者の視点で見た年配者の記録する重要性は高い。
・マチグヮー楽会において、「あちねー（商売）部会」が新設された。
・防災が自治の回復の取り組みへのきっかけに。災害に強いまちづくりを目指して活動していく動きとなった。
・大学と連携したマチグヮー体験の機会づくりを行っていくきっかけをつくれた。
・再スタートを切った那覇市中心商店街連合会はマチグヮー内部の商業者をつなぐ組織になりえる可能性が見えた。

第２回マチグヮー楽会１日目

（直近１年間の成果など）

・マチグヮーに関する情報発信の３つの推進基盤が整いつつある。
　⇒マチグヮーオフィシャルサイト「てくてく通信」／マチグヮー楽会／地域情報誌「み～きゅるきゅる」
・沖縄大学との連携をより深める形で、中学生の職場体験受け入れプロジェクトを実施。
・年配者の記録の必要性から、中学生向けの副読本作成に取り組めている。
・那覇市中心商店街連合会の事業として、広報紙の発行サポートを行うことができている。

大学生による中学生
職場体験オリエンテーション

●　今後の課題及び展望

（課題）

・３つの情報発信の推進基盤の自立的・継続的な運営
・那覇市中心商店街連合会を中心とする商業者の担い手の活動の活性化
・ハードの老朽化更新への対応

（展望）

・通り会のソーシャルサービスの展開
・マチグヮーのビジョンづくり
・てくてく通信を活用した応援したいお店を応援できる体制づくり

●　その他（自由記述）

人口減少、高い地価などチャレンジしにくい条件、まちづくりの中核となる担い手が見えない、など厳しい環境は変わらずあるが、10 年・20 年先を見越した取り組みが必要となっている。